

公益財団法人日本バレーボール協会

2019年度 基本方針

日本バレーボール協会(JVA)は、2011年2月1日に公益財団法人へ移行し、10期目を迎える。昨今のスポーツ界においては、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(東京2020大会)を目前に控え、スポーツへの関心が高まる中で様々な不祥事が続き、スポーツ・インテグリティの向上が喫緊の課題となっている。このような環境のもと、JVAは、バレーボール、ビーチバレーボールの魅力を最大限に発揮するとともに、JVAのガバナンス及びコンプライアンスを更に強化し、バレーボールを愛するすべての国民の心身の健全な発達、維持および人間性の向上に寄与し豊かな社会の形成に貢献することを目指す。

1. 基本方針

2018年10月にキックオフをした、中期経営計画を推進するための重要なステップとなる2019年度において、特に下記の項目を重点項目として着実に実行していく。

財務改革の推進

中期経営計画の最重要課題の1つでもある財務改革について、2019年度においても収入・費用の両面からの改革を断行する。

- 費用削減:大会経費の削減、強化費用の精査
- 収入増大:大会収入の増加、協賛金、グッズ販売

選手強化事業

東京2020大会において最大限のパフォーマンスを発揮するための強化策の実行及び2024パリ大会を見据えた強化を推進する。

体罰・暴力・ハラスメント根絶に向けた取り組みの強化

体罰・暴力・ハラスメント対策プロジェクト(仮称)による実態調査、指導者教育の再構築等の対策を立案し、実行する。

MRS改善への取り組み

バレーボールを愛する人すべてに参加いただける、バレーボールファミリー会員制度(仮称)として、2020年度からの実行を目指す。

加盟団体との連携強化

加盟団体との更なる連携強化、経営課題の抽出・整理、法人化を推進する。
また、Vリーグ機構との連携強化(加盟団体化、年間の共同マーケティング、プロモーション)を図る。

ビジネスモデルの改革

従来からの大会運営にとらわれない、新ビジネスモデルの構築(大会価値の向上)に着手する。
■国際大会、国内大会、2020テストマッチ